

2020. 10. 1-2 福岡 (WEB 開催)

0-6

題名：当院での子宮内フローラ検査の現況とその治療法について

発表者：門上大祐¹、中村春樹¹、松岡麻理¹、北山利江¹、太田志代¹、勝佳奈子¹、中岡義晴¹、森本義晴²

(1. IVF なんばクリニック、2. HORAC グランフロント大阪クリニック)

【背景】

妊娠成立、維持には子宮内に存在する乳酸桿菌(Lactobacillus)が重要な役割を担っていることが報告されている一方で Lactobacillus が少なかった場合の有効な治療法は確立されていない。今回我々は、IVF 反復不成功症例を対象とした子宮内細菌叢の評価を行い、さらにその治療法について検討したので報告する。

【対象と方法】

対象は 2018 年 12 月から 2019 年 10 月の期間に子宮内細菌叢の検査を行った 392 人のうち Lactobacillus(もしくは Bifidobacterium) が 90%未満の症例 176 人(44.9%)である。治療には Probiotics 内服(レベニン)、Probiotics 膣剤(inVag)、Prebiotics(Lactferrin)、Metronidazole を組み合わせて行った。

【結果】

治療後に子宮内細菌叢の再評価を行い、Lactobacillus(もしくは Bifidobacterium) が 90%以上となった症例を治癒と判断した。以前に当院から発表したデータでは、レベニン群、レベニン+Lactferrin 群、Metronidazole 群、レベニン+Lactferrin+Metronidazole 群による治療ではいずれも治癒率が 30%程度であり有意差は認めなかったが、inVag 群による治療では良好な治癒率(44.4%)を認めた。

【考察】

この結果踏まえ、今回は 28 人に対して、inVag(1Cap/day)と Metronidazole(内服 250mg×3T/day、膣剤 250mg/day)をいずれも 1 週間投与するプロトコルで治療効果を評価した。結果、治癒率は 78.6%となり、その他の治療群より有意に良好な結果が得られた。